

『カンタベリ物語』本文の中でチョーサーが初めて使用した ラテン語とフランス語の研究(7)

保谷一三

これはチョーサーが『カンタベリ物語』本文で初めて借用したラテン語とフランス語の研究である。今回は(6)に続き, 217. *infortunat*~252. *Malvesye* 間での36語を扱う。借用の年代は1386年(頃)と確定しており, これとフランス語における初出年とを比較し, 借用の早さ, 借用の文化的背景を論じる。その際大陸のフランス語からか海峡の彼方のフランス語からかによって借用の意味の違いを明らかにする。

キーワード: チョーサー, ラテン語, フランス語, 借用語

217. *infortunat* a¹⁾(L)²⁾B.³⁾ML.⁴⁾302.⁵⁾

Infortunat ascendent tortuous,
(Of which the lord is helples falle, allas!)

(大意)(アラブのサルタンへの嫁入りの日)不運にも(王女コンスタンスの)星座は傾きながら昇り, (火星が星座に重なる意地悪も手伝って)致し方のないまま(暗黒の地平線下に沈んでいった。ああ!)

Rothwell⁶⁾にはない。Greimas⁷⁾によると OF *fortuné* XIII^e s., Dautzat⁸⁾によると *infortuné*1361年, *lexis*⁹⁾によると *infortuné*1350年の初出で, いずれも Chaucer の1386年以前に¹⁰⁾語尾形となっている。一方関連する Chaucer 著書 *Astrolabe* 2. 4.には *infortunat* が何度か出る上, 「息子は Latin は読めないだろうから English で書く」ということわりの中に原書はラテン語書というヒントがある。OED が <L. *infortunatus* としている通り, -us 語尾を取り払っただけの大胆な借用形容詞である。

218. *inordinat* a (L) I. Pars. 410-5.

/And, as seith Seint Gregorie, that precious clothing
(注. the clothing of thilke rich man in the gospel) is coupable for the derthe of it, and for his softnesse, and for his strangenesse and degysinesse, and for the superfluitee, or for the *inordinat* scantnesse of it./

(大意)/そして聖グレゴリーも言うように, (キリストが述べた金持ちの)高価な衣裳は高価であるがために, またそのしなやかさのために, またその派手さ, 度を越えた露出性のために, 罪深いものがあります。/

Rothwell には *ordiner* があるが, 過去分詞はない。Dautzat では *ordonner*1119年 > *ordiner*1190年頃, *ordonné* milieu XIII^es.である。*lexis* では *désordonné*<<*débauché*>>1265年頃初出。OED が <L. *inordinatus* としている通り, ラテン語からの直接の借用である。

219. *inquisitif* a (OF) A. Mil. 3163.

An housbond shal nat been *inquisitif*
(Of goddes privetee, nor of his wyf.)

(大意)夫たる者は(神の秘義や妻の秘め事を)詮索すべきものではありません。

Rothwell では *enquerre* のみ。Dautzat では *enquerre*1080年, *enquerir* XIV^e s.初出。しかし *inquisition* は1160年初出。*lexis* では *inquisitif*1380年初出。OED も <OF. *inquisitif* としている。Chaucer は OF. に出て間もなくこれを使ったことになる。

220. *insolence* n (L) I. Pars. 390-5.

/There is Inobedience, ... *Insolence*, ... Veyne
Glorie; and many another twig that I can nat
declare./...

(大意)不服従, ...ごう慢, ...虚栄; はたまたその分枝も多く, とても全部は言えません。

Rothwell, Greimas, Dautzat にはない。*lexis* では「不慣れ」1495年, 「ごう慢」1645年初出。OED も <F. *insolence* 15th c. としているが, これでは Chaucer の1386年を説明しない。*The Riverside Chaucer*¹⁰⁾によるとこの Tale には Latin sources がある。そこで Chaucer は L. *insolentia* から直接に仏語形をつくりこれを借用したと考えられる。

221. *insolent* a (L) I. Pars. 395-400.

/*Insolent*, is he that despysyth in his Iugement
all othere folk as to regard of his value, and of his
conning, and of his speking, and of his bering./...

(大意)/ごう慢な人は心中自分の価値, 頭のよさ, 雄弁, 風采をたてに他人すべてを軽蔑します。/...

Rothwell にも Greimas にもない。Dautzat は1495年初出として L. *insolens* からの借用を述べている。しかし「慣れない」の意。*lexis* 1645年になって <<*impoli*>>の意味が現れたとする。Chaucer の1386年を説明するには 220. と同じ考え方しかない。

222. *instable a* (OF) E. Mch. 2057.

O sodeyn hap, o thou fortune *instable*,
 (Lyk to the scorpion so deceivable,
 That flaterest with thyn heed when thou wolt
 stinge;)

(大意) おお、突如の不運(注. 盲目になった), おお
 汝定めなき運命の神よ! (獲物を欺くサソリにも似て,
 温顔を見せつつ人を奈落に突き落とす。)

Rothwell は *stable* のみ。 *instabilité* はある。 Greimas
 にもないが, Dautzat では *instable* 1372年初出。 *lexis* も同
 じ。 OED も <F. *instable* 14th c. としている。

223. *insufficient a* (OF/AF) D. Sum. 1960.

(Your inconstance is your confusioun.
 Hold ye than me, or elles our covent,)
 To praye for yow ben *insufficient*?

(大意) (あなたの不信心が身の破滅(注. 篤い病)を
 誘ったのですぞ。 一体わたしないしわたしの教団の) あ
 げる祈禱では不足があるとお考えかな?

Rothwell では *insufficient* 'insufficient'がある。 例文
 として La cause est i. a remuer la parole (その理由で
 は訴訟の取り下げに十分ではない) YBB 33-35 Ed I 173.
 がある。 Greimas では *suficient XIII^{s.}*, Dautzat では
suffisant 1190年, *insuffisant début XIV^{s.}*それぞれ初
 出。 AF とできるが, 一応 OF/AF としておく。

224. *intellect n* (OF) A. Kn. 2803.

(The vital strengthe is lost, and al go.)
 Only the *intellect*, with-outen more,
 (That dwelled in his herte felte deeth,)

(大意) (生きる力は失われ, 完全に消滅した。) ただ
 理智だけが心に残って死を予知した。

Rothwell, Greimas にはない。 Dautzat によると *intel-*
lect 1265年初出。 *lexis* も同じ。 OED も <F. *intellect* 13th
 c. <L. *intellectus* としている。

225. *interrogaciouns np* (OF) A. Mil. 3194.

(Was turned for to lerne astrologye,
 And coude a certeyn of conclusiouns)
 To demen by *interrogaciouns*,

(大意) (大工の家の居候の貧乏学生は占星学に凝り,
 いくらか精通して,) 計算によって結果を得ることもでき
 た。

Rothwell, Greimas にはないが, Dautzat によると
*interrogation XIII^{s.}*初出。 *lexis* は 1200年頃としている。
 動詞の *interroger* は 1350年頃の初出であるから, 名詞形
 の方が早い。 OED は <OF としていて, これでよさそう
 である。 ただ語尾の *-ciouns* はこの場で AF 形にしたとい

うことになる。

226. *introduccioun n* (AF) G. CY. 1386.

Thus maketh he his *introduccioun*
 (To bringe folk to hir destruccioun.—)

(大意) (銅を魔法の粉を使って水中で銀に変える
 —実はすり替える。)このような(詐欺の)口で彼(注.
 教会付の僧)は(法外な授業料を取った上ドロロンして人々
 を破滅させるのです。)

Rothwell によると AF *introduccioun* に 'initiation' と
 'first step' の二つの意味がある。 Skeat も *The Riverside*
Chaucer も OED も 'first step' の方を取っているの
 で, それに従うが, CY の話の終わりで結論的に出てくるので
 「口」と訳した。 Greimas にはないが, Dautzat では
introduction XIII^{s.} <enseignement> である。 *lexis* は
 1200年頃としている。 <enseignement> は 'initiation' に
 当たる。したがって語形と意味から AF とできる。

227. *jakke-fool n* (AF) A. Mil. 3708.

'Go fro the window, *Iakke-fool*,' she sayde,
 (…

…
 I love another,…
 Wel bet than thee, by Iesu, Absolon!)

(大意) 「窓から離れなさい, お馬鹿さん」(と彼女(ア
 リスン)が言った。 ……わたしには別なずっといい人(学
 僧のニコラス)がいるのよ, ほんとよ, アブソロンさん!)

Rothwell によると AF *fol*, *fool*, *fou(l)*, etc.がある。
 形容詞と名詞の用法で, 'fool, idiot' の意。 例文として Lui
emperur repondi: 'F., kar vus teisez!' (皇帝はかれに
 向かって答えた: 「愚か者。 ならば口をきくな!」) *Boeve*
 302. Greimas によると OF *fol* < *fou*, *qui a perdu la*
raison >。 Dautzat によると *fol* > *fou* で 1080年初出。 *lexis*
 も同じ。 OF として古いだが *fool* という語形は AF 特有の
 ものであるから, AF としたい。 OED の *fool* < OF は採れ
 ない。

228. *jane n* (OF) B. Th. 1925.

(His robe was of ciclataun,)
 That coste many a *Jane*.

(大意) (彼(注. 騎士トパス)の長衣は絹布製。)ジェ
 ノア金貨で何枚もします。

Rothwell, Greimas, Dautzat, *lexis* にはないが, Skeat
 は a small coin of Genoa とし, Janne, Jannes, Génes
 と綴られたとする Roquefort の説明を採用している。
 OED も < OF *Janne(s)* としている。

229. *jangleresses np* (OF/AF) E. Mch. 2307.

For sithen he seyde that we ben *Jangleresses*,

(…

I shal nat spare, for no curteisye,
To speke him harm that wolde us vileinye.)

(大意) 彼 (ソロモン) が私達女をおしゃべり女どもと言ったからには (…私は非礼には非礼で対応します。そして私達に悪さをする人に惜しみ無く悪口を言ってやります。)

Rothwell は *jangleresse* を女性形容詞として採録している。‘garrulous, gossiping’の意。動詞 *jangler*, 名詞 *jangleresse* もある。Greimas によると OF *jangleor* 1125年初出。《bavard》の意。Dauzat, *lexis* にはない。OED は *jangleress* < OF. *jangleresse* としているが、AF も無視できないので、OF/AF としておく。

230. *jeet* *n* (OF) B. NP. 4051.

His bile was blak, and as the *Ieet* it shoon;

(大意) 彼 (おんどりのチャンティクレール) の嘴は真っ黒で、黒玉炭のように輝いていた。

Rothwell, Greimas, *lexis* にはないが、Dauzat は OF *jais* で、1260年初出としている。< *jaïet* < L. *gagates*. Skeat は ‘jet’ と注釈している。OED は < OF. *jaïet* 12th c. としている。OF でよい。

231. *joynant* *a* (AF) A. Kn. 1060.

(…the chief dongeon,
…
…)

Was evene *Ioynant* to the gardin-wal,

(大意) (…天守閣は……) 庭園の壁にじかに接していた。

Rothwell によると AF *joindre* の現在分詞は *joina(u)nt*, *juina(u)nt* である。一方 Greimas によると OF *joindre* 1080年初出。現在分詞 *joignant* 1283年初出。《tout près》の意。OED は < F. *joignant* としているが、綴りからみて明らかに AF である。

232. *jolynesse* *n* (OF/AF) F. Sq. 289.

I seye na more, but in this *Iolynesse*
(I lete hem, til men to the soper dresse.)

(大意) (踊り方については死んだランスロット以外分らないので) もうよします。二人 (王女カナスと王の誕生祝いの席に飛び入りで参加した見知らぬ騎士) を (列席者が正餐の席に着く時刻まで) 楽しく踊るがままに (しておきましょう。)

Rothwell にはない。しかし *jolif* ‘jolly’ や名詞として *jolifté*; *jolité* がある。Greimas では OF *jolif* 1175年初出。Dauzat では *jolif* < *gai* は後に *joli* となる。-f の脱落は OF, AF に共通に見られるとすると、-nesse という英語の語尾をつけたのが Chaucer ということになる。

233. *jossa* *int.* (OF ?) A. Rev. 4101.

(Thise sely clerkes rennen up and down)
With ‘Keep, keep, stand, stand, *Jossa*, warderere,
(Ga whistle thou, and I shal kepe him here !)

(大意) (知らないうちに粉屋の奴に小麦を積んで来た校長の乗馬をめ馬のいるほうへ放されてしまった世間知らずの二人のカンタベリの学生僧はひき終わった粉を受け取る間もなく馬を追いかけ、) 「止まれ、止まれ、ストップ、ストップ、どう、後ろを振り向け、(君は口笛をふけ、僕が手綱をつかまえる。!)。この混乱の中で粉屋は学校の粉をたっぷり半プッシュェル抜き取り、パンを焼くよう妻に渡した。

Rothwell, Greimas, Dauzat, *lexis* にはない。Skeat は Notes¹¹⁾ の中で OF *jos*, *jus* ‘down’ + *ça* ‘here’ で ‘Down here’ の意だとしている。The *Riverside Chaucer* も馬に対する停止命令としている。Skeat にしたがって、OF としておく。

234. *gipoun* *n* (OF) A. Kn. 2120.

(Som wol ben armed in an habergeon,
In a brest-plat and in a light *gipoun*;

(大意) (城主の娘エミリー獲得の模擬戦において、パラモン側についたある騎士は鎖かたびら、そのうえに) 軽量の胴着、さらに胸当て (をつけようと考えた。)

Rothwell には *jupe* があって、‘gown, shirt’ の意。この語については本文研究に先行する総序文研究の27番 A. Prol. 75. で扱ったので単に OF としておく。

235. *laborous* *a* (AF) D. Fri. 1428.

(My wages been ful streite and ful smale.
My lord is hard to me and dangerous,
And myn offyce is ful *laborous*;

(大意) (地代取り立て人の私の賃金はほんとにわずかです。主人は厳しくてうるさいし) 仕事はいたってたいへんです。

Rothwell によると AF *laborus*, -ous ‘wearisome, difficult’。例文として Car *vie d’ome est breve et le mond laborus* (なぜなら人の命は短く、この世は生きにくいから) *Rom Chev* ANTS 5. Greimas によると OF *laboros* 1204年初出。《pénible》の意。Dauzat によると *laborieux* fin XII^es. 初出。lexis では 1150年初出。これにより OF は早くから -ieux 形になっていたことが分かる。一方 AF は L. *laboriosus* に近い形に留まっている。結果として AF としておく。

236. *lacinge* *pp* (AF) A. Kn. 2504.

Gigginge of sheeldes, with layneres *lacinge*

(大意) 楯を紐で補強するため、革紐を通した。
of は今なら off で ‘to a finish’ の意と思われる。Roth-

wellによると AF *lacer*, *-ier*. Greimasによると OF *lacier*1080年初出。Dauzatによると *lacer*1080年初出, *lacier*1360年頃。これから OF は *lacier* に傾き, AF は *lacer* 中心に留まったと見る。AF の例文: *li bliauz…De chef en chef lacé esteit* (陣羽織は上から下まで飾り紐を通されていた) *Ipom*2221.したがって AF が適当である。OED の *lace*<OF *lacier* は採用しない。

237. *layneres np* (OF/AF) A. Kn. 2504.

Gigginge of sheeldes, with *layneres* lacinge ;
(大意) 236. と同じ。

Greimas, Dauzat, *lexis* にない。Rothwellによると AF *lanere*, *-ier* 'lace, thong'の意。Skeat の glossary¹²⁾によると<OF *laniere*である。OED は *lainer*, *laner*<ME. *layner*<F. *lanière* としている。OF/AF としておく。

238. *launcegay n* (AF) B. Th. 1942.

And in his hond a *launcegay*,
(A long swerd by his syde.)

(大意) (騎士トパスは出立に当たり)手には短槍をもち, (脇には太刀を帯びた。)

Greimasによると OF *lancegaie* XIII^es.初出。<《javeline, demi-pique》の意。Dauzat, *lexis* にはない。Skeat の Notes によると<Spanish *azagaya*<of Moorish originらしい。Rothwellによると AF *lancegaie*, *-gay* 'javelin'。例文として *qe desormés null homme chivache…armez…ne ovesques lancegay* (今後何人も馬で行くに当たって鎧を着たり, 短槍を携えたりすることはできない) *Stats* II 35xiii がある。この *-gay* の綴りは重要で AF とできる。

239. *laureat a* (L) E. Cl. 31.

Fraunceys Petrark, the *laureat* poete,
(Highte this clerk,…))

(大意) フランセスコ・ペトラルカ, 桂冠詩人(がその学僧の名前です。…)

The Riverside Chaucer によるとペトラルカは crowned with laurel in 1341 である。Rothwell, Greimas にはないが, Dauzat によると *lauréat a*. 1530年初出。du lat. *laureatus* としている。また *lexis* も 1530年初出としている。とすれば Chaucer はラテン語の形容詞から *-us* 語尾を取り去って直接に英語化したことになる。OED も<L. *laureatus* としているが, 実はそれは Chaucer の仕事だったのである。

240. *lauriol n* (AF) B. NP. 4153.

(…, er ye take your laxatives,)

Of *lauriol*, centaure, and fumetere,

(大意) …そのあと下剤としてトウダイグサ, ヤグル

マギク, カラクサケマン (をお食べなさい。)

Greimas にはない。Dauzat によると *lauréole* XIV^es. 初出。 *lexis* によると1300年頃初出。OED は<F. *laureole*。しかし Rothwell によると AF *laureole*, *-iole* (bot.) 'spurge-laurel'である。この AF の *-iole* は重要で, AF 由来とできる。

241. *laxatif n* (OF) A. Kn. 2756.

(Him gayneth neither, for to gete his lyf,)

Vomit upward, ne downward *laxatif* ;

(大意) (馬が転倒し, 頭を打ち, 胸を鞍で強打したアースイトには救命の手立てはなかった,) 口から吐かせるにせよ, 下剤を飲ませるにせよ。

Greimas, Rothwell にはないが, Dauzat によると OF *laxatif* XIII^es. *Simplex Médecines* という文献に初出。L. の *laxativus*<*laxare* に由来し, <《purgatif》の意。 *lexis* では1250年初出。OF と見てよい。

242. *lymaille n* (OF) G. CY. 1126.

(In which ful subtilly was maad an hole,)

And ther-in put was of silver *lymaille*

(An ounce, and stopped was, with-outen fayle,
The hole with wex, to kepe the lymail in.)

(大意) (司祭をだまして, 水銀と一緒に火の中に入れて水銀が銀に変えられるとして偽の粉末を高く売り付けようとした教会付の僧は人払いさせた後司祭に炭を起こさせ, そのうちに胸ポケットからブナ炭を取り出した。これにはごく巧妙に穴が掘ってあり,) 中にヤスリで削り落とした銀粉が (一オンス詰めてあり, こぼれないよう蠟で蓋がしてあった。これをこっそり火の中に入れる。一方水銀は黒か黄か赤の酸化水銀粉末に変わり, 無知な司祭には判断できない。)

Greimas, Rothwell にはないが, *lexis* によると *limaille*1220年初出。例: *limaille de fer*「鉄粉」。Cf. *lime* 「やすり」1175年初出。OED も<OF。OF でよい。

243. *leonyn a* (OF/AF) B. Mk. 3836.

(His hye entente in armes and labour ;)

So was he ful of *leonyn* corage.

(大意) (かれ(アレキサンダー大王)の戦と仕事にかける激しい情熱は(酒と女を除いて何物にも弱められる事がなかった。)同様に彼は獅子の猛々しさにも満ちていた。

Rothwell によると AF *leonin* 'lionlike'がある。例文として *Mes ne fud enpeiné un point Horn, …Ainz corut envers li od fier quoeur l.* (しかしホーンは全く傷を負わず, …むしろ獅子にも等しい猛勇を振るって相手に向かって突進していった。) *Horn* 1531.

Dauzat によると *léonin* 1130年初出。Cf. *léon* 1080年初出。 *lexis* も1130年初出。OED は<L.のみ。OF でよい。

244. *litarge* *n* (OF/AF) G. CY. 775.

(Our orpiment and sublymed Mercurie.)

Our grounden *litarge* eek on the porphurie,

(大意) 私達の使うヒ素の硫化物や純粋水銀) また大理石の白でひいた (赤い) 鉛酸化物の粉末 (など)

Rothwell によると *litarge* 'litharge, lead monoxide'. 例文として *confisez le poudre de l. & ceruse en ewe rose* (酸化鉛と白鉛の粉末を赤水の中で混合しなさい) *Rom* 37. 521. Greimas によると *litargire*, *litarge* 1314年初出。《une sorte de médicament (protoxyde de plomb demi-vitreux)》。 *lexis* も1314年初出。P₂O₃ rouge-orange 色としている。OED は<OF。しかし AF ともいえる。

245. *lowe coler* *n* (AF) A. Mil. 3265.

A brooch she baar up-on hir *lowe coler*,

(As brood as is the bos of a bocler.)

(大意) 彼女 (オックスフォードの老大工の若妻) が襟元につけたブローチは (楕の中心の盛り上がった鍔ほどの大きさがありました。)

Rothwell によると AF *coler* は 'neck' と 'collar' の二つの意味がある。ここでは特に 'collar' の意味になる。Greimas によると OF *collet* が 'collar' を, OF *col* (PF *cou*) が 'neck' を, 意味する。そして OF *coler* は《*collier*》すなわち 'necklace' を意味している。したがって完全に AF である。OED の AF *coler* = OF *collier* は検討不足。

246. *lunarie* *n* (L?) G. CY. 800.

(And herbes coude I telle eek many oon.)

As egremoine, valerian, and *lunarie*,

(大意) それに薬草もたくさん言ってごらんに入れられます。キンミズヒキ, カノコソウ, ヒメハラワラビなど。

Rothwell, Greimas にはないが, *lexis* によると *lunaire* < scientific Latin の *lunaria* で, 1542年初出。OED は< medieval Latin の *lunaria*。Chaucer はラテン語の薬草書から直接仏語風に借用したかも知れない。

247. *lure* *v* (AF) D. WB. 415.

With empty hand men may none haukes *lure* ;

(For winning wolde I al his lust endure,

And make me a feyned appetyt ;)

(大意) 餌がなければ鷹をひきつけることはできません。

(男性を獲得するために私は男性のすべての欲望に耐えて自分をおいしく見せるつもりです。)

Dauzat によると OF *loirier* > PF *leurrer* で, 《faire revenir le faucon》の意。1220年頃初出。名詞はこれよ

り早く OF *loire* (> PF *leurre*) 1190年 (*lexis* による) 初出。Rothwell によると AF *lure* 'lure'がある。例文として *Falcon et esmerillon et hobei afeitez od la l.* (鷹やコチョーゲンボウやチゴハヤブサはこの餌で訓練しなさい) *Glan lex* 218. OF と同じく AF でもやがて動詞が出てきてよいとすると, Chaucer はそれを敢えてしたのかも知れない。綴りから AF としておく。

248. *lute* *n* (OF) H. Mcp. 268.

Bothe harpe, and *lute*, and giterne, and sautrye ;

(大意) (妻の不貞をカラスに告げられたアポロンは妻を殺し, 楽人としてもっていた) ハープもリュートもギターもプサルテリオンも (たたき壊した。)

Greimas, Rothwell にはない。OED は< F. *lut* ; PF. *luth* としている。Dauzat によると *luth* XIII^s. 初出。 *leit* と綴った。アラビア語 > プロバンス方言らしい。OF とし, -e は英語のための付加とする。

249. *magnesia* *n* (med. L) G. CY. 1455.

'Which is that?' quod he. *Magnesia* is the same,

(Seyde Plato...)

(大意) (プラトンの弟子が秘石について聞くと, それは俗に Titanos というかと答えた。)
「それはどんなものですか」と弟子が言うと, 「(酸化) マグネシウムのことだよ」とプラトンが答えた。

Greimas, Rothwell にはないが, Dauzat によると *magnésie milieu* XVI^s. 初出。中世ラテン語の *magnesia* に由来する。フランス語の初出が16世紀であるとする。Chaucer は medieval Latin から直接に借用したことになる。

250. *malignitee* *n* (OF/AF) I. Pars. 510-15.

/Thanne comth *malignitee*, thurgh which a man anoyeth his neighebor prively if he may ;/

(大意) 次に悪意があります。これのある人は可能であればひそかに隣人を苦しめます。

Rothwell によると AF *malignité* 'evil'. Dauzat によると *malignité début* XII^s. 初出。 *lexis* は1190年初出。OF としてよさそうであるが, -ee 語尾は AF 特有のものであるから, AF ともできる。

251. *malliable* *a* (OF) G. CY. 1130.

(That this quik-silver wol I mortifye
Right in your sighte anon, withouten lye,
And make it as good silver and as fyn
As ther is any in your purs or myn,
Or elleswher, and make it *malliable* ;

(大意) この水銀をあなたの目前で固体化してご覧にいます。嘘はつきません。そして純銀にしてみせます。

あなたや私の財布のなかやどこぞにあるものと全く同じです。つちで叩いて延ばせるやつです。

Dauzatによると malléable XIV^es.初出。《qui peut être battu au marteau》の意。lexis は1300年頃。Rothwell では AF mailler 'to beat with a mallet'はあるが、形容詞形がない。そこで OF としておく。

252. Malvesye *n* (OF) B. Sh. 1260.

With him broghte he a Iubbe of *Malvesye*
(And eek another, ...)

(大意) (商用旅行のまえに家で過ごしてくれと頼まれた坊さんは) ギリシャワイン一壺, また…もう一壺もった。

Rothwell は malvesey 'malmsey'. lexis は malvoisie 1360年初出。AF でもよいが, 前行の curtesye とそろえた。

(続く)

報告: 本論文シリーズは OED の改訂計画への協力の呼びかけに応え, 語源欄(L, OF, AF)の改訂に役立ち得るものとして送っており, 平成6年分に対しては, "which we have studied with interest."の手紙を Hunt 副主幹からもらっているので報告させていただきます。

文 献

- 1) *a* は形容詞を示す。以下品詞の英語名の略語がここにくる。
- 2) *L* は Latin を示す。以下語源となる言語の略語がここにくる。
- 3) *B.* は Skeat ed. *The Works of Chaucer* の Volume IV (TEXT)の目次に示された物語の集団分類記号で, アルファベット順になっている。
- 4) *ML.* Skeat の TEXT に出る The Tale of the Man of Lawe の略。
- 5) 305. *ML.* の行番号。何行目であるかを示す。
- 6) Rothwell: *Anglo-Norman Dictionary* 1992. Fascicles 1-7 完結。
- 7) Greimas: *Ancien Français* 1968.
- 8) Dauzat éd.: *dictionnaire étymologique* 1964.
- 9) *lexis*: *dictionnaire de la langue française Larousse* 1975.
- 10) *The Riverside Chaucer* 3rd ed. OUP.
- 11) Notes: Skeat ed.: *The Works of Chaucer* Volume V.
- 12) glossary: *The Works of Chaucer* Volume VI.

Abstract

A Study of Latin and French Loan Words Which Chaucer First Used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue (7)

Katsuzo HOYA

This is the seventh installment of a study of Latin and French loan words which Chaucer first used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue. This time I treat the next 36 words, No. 217. infortunat to No. 252. Malvesye. The date of the first borrowing is ascertained to be about 1386. The present study compares the date with that of the first recorded appearance in French and elucidates the rapidity, and the cultural background, of borrowing. Special emphasis is placed on distinguishing the two sorts of French, Continental French and Anglo-French (or Anglo-Norman), thus making clear the nuance of borrowing.(To be continued)

Department of Foreign Languages (English)